

農福連携の現状

- 農福連携は、障害者の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組。さらに、高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者の就労・社会参画支援や、犯罪をした者等の立ち直り支援にも拡大。
- 様々な種類の作物が生産・加工・販売され、多様な作業が必要となる農業現場では、個々の特性に合った作業との出会いによって、障害者等も農業の貴重な働き手となるとともに、工賃の向上等を通じた生活の質の向上も実現。

「農」と福祉(障害者)の連携(=農福連携)

【農業・農村の課題】

- ・農業労働力の確保
〔基幹的農業従事者は
20年間で約4割減少〕
- ・荒廃農地の解消 等
〔再生利用可能な荒廃農地
は全国で約9万ha〕

【福祉(障害者)の課題】

- ・障害者等の就労先の確保
〔障害者約1160万人のうち
雇用施策対象となるのは
約480万人、うち雇用(就労)
しているのは約114万人〕
- ・工賃の引き上げ 等

【農福連携の推進】 事例①②

障害者が持てる能力を発揮し、農業生産活動に参画



【「福」の広がりへの支援】 事例③

障害者以外の社会的に支援が必要な人たちも
農業に就労し地域社会を構成

農福連携等

①農業経営体が障害者を雇用 京丸園(静岡県浜松市)

- 平成8年から毎年1名以上の障害者を新規雇用。従業員106名中、障害者は25名
- 障害者視点で農作業の体制を整備。作業効率化が進み、経営規模と生産量が拡大
- 障害者雇用数に比例し売上増加(28年間で9倍に拡大)



誰でも正確な作業ができるよう器具を工夫

②障害者就労施設が農業参入 社会福祉法人ゆずりは会菜の花(群馬県前橋市)

- 施設を利用する障害者約20名以上が全員、年間を通じて農作業に従事
- 認定農業者・地元JAの正組合員として地域農業の重要な担い手に
- 平均工賃は7.4万円となり、県平均の約3倍を実現(R5)



個々の特性に合う作業を割り当て

③多様な人材が農業で活躍 社会福祉法人白鳩会(鹿児島県南大隅町)

- 過疎化が急速に進む地域において、事務所出所者等も含めた多様な人材が、個々の特性に合わせて、農業生産、加工・販売、レストラン等の業務に従事。
- 地域の高齢農家から農地を引き受け、耕作面積は38haに拡大

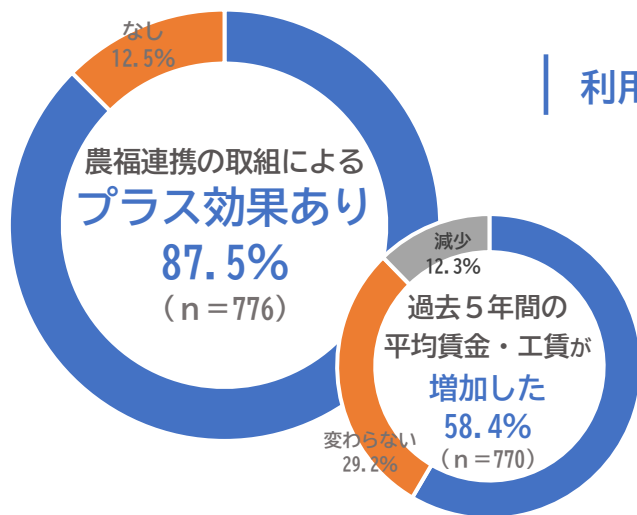


茶の収穫機操縦を障害者が実施

農福連携の効果と課題

○農業側、福祉側ともに、農福連携によりプラスの効果のあることを実感。

1. 福祉サービス事業所の回答



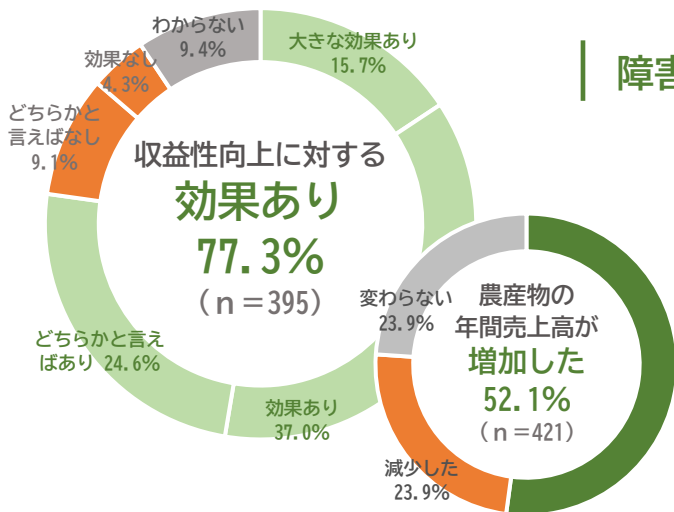
利用者へのプラス効果

- ・80.5%が「体力がついて長い時間働けるようになった」と回答(n = 549)
- ・58.3%が「表情が明るくなった」と回答(n = 655)
- ・46.5%が「コミュニケーション力が高まった」と回答(n = 649)

農福連携を進める上での課題 (n = 808)

販路の確保	49.6
障がい者等の適性に応じた作業の創出	48.5
農産物等の安定生産	46.9
農作業中のトイレの確保	43.9
通年で農作業等の創出	43.9
農業技術の習得	41.3

2. 農業経営体の回答



障害者等を受け入れることの効果 (n = 424)

- ・56.4%が「障害者等が貴重な戦力となった」と認識
- ・55.7%が「労働力確保で営業等の時間が増加」と認識
- ・31.6%が「品質の向上や収量の増加につながった」と認識

障害者等を受け入れる上での課題 (n = 422)

労働時間と農作業の調整等、スケジュールの調整	44.3
通年で働いてもらうための作業の創出	42.4
農作業の手順や技術を教えること	41.5
ほ場でのトイレ・休憩所の確保	37.2
農作業中の障がい者等の健康・安全管理	36.0
コミュニケーション	32.9

農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)に基づく施策の推進方向について

- 「農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)」(令和6年6月5日農福連携等推進会議決定)に基づき、「地域で広げる」「未来に広げる」「絆を広げる」を新たなスローガンに、「農福連携等を通じた地域共生社会の実現」を目指して、法務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省が連携した施策を推進。



詳しくは
こちらを
ご覧ください

農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)の概要

地域で広げる

未来に広げる

絆を広げる

- 地域協議会や伴走型コーディネーターの活動を通じて、地域単位の推進体制づくりを後押し
- 生産施設等の整備やスマート農業技術等の活用
- 地域での多様な連携やノウフク商品のブランド化
- 現場で農業と福祉をつなぐ専門人材の育成
- 農業の担い手や農業高校の生徒等への普及
- 特別支援学校の実技・実習要望に対する農業者による協力・支援
- ノウフクの日(11月29日)等による企業・消費者も巻き込んだ国民的運動の展開
- 社会的に支援が必要な人たちの農業での就労
- 世代や障害の有無を超えた多様な者の交流・参画の場としてのユニバーサル農園の拡大
- 林福・水福連携の推進

農福連携等を通じた地域共生社会の実現

KPI

2030年度までに、4省庁が連携して、農福連携等の取組主体数を12,000件以上、地域協議会に参加する市町村数を200以上とする

● 地域協議会の体制イメージ

都道府県振興局、市町村、農業・福祉関係者、教育機関等が参画

● 地域協議会で想定される取組

- ・ 農業と福祉のネットワークづくり (交流会、体験会等)
- ・ 地域内の農福連携のルールづくり (作業単価の設定等)
- ・ マッチングや農業実習の受入れ
- ・ 事業者間で共同した販路開拓 等



恵庭市農福連携ネットワーク(北海道)



大隅半島ノウフクコンソーシアム
(鹿児島県)

● ユニバーサル農園とは

世代や障害の有無を超えた多様な者の交流・参画、健康増進、生きがいづくり、職業訓練、立ち直りなど、農業体験活動を通じて多様な社会的課題の解決につながる場



NPO法人土と風の舎
こえどファーム(埼玉県)

農福連携の取組ステージに応じた支援

知りたい

■農福連携に関する情報発信



農福連携専用HPノウフクWEB

農福連携 事例集
(令和5年度版)

全国における取組事例集



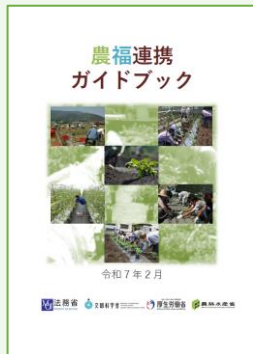
農福連携の早わかり動画



農福連携に取り組む
障害者の生の声

■マニュアル・ガイドブック

農福連携の取組手順や各省の支援策を紹介



農福連携ガイドブック



スタートアップマニュアル

■優良事例の選定・横展開

ノウフク・アワードの表彰



始めたい・深めたい

■ワンストップ窓口の設置

農福連携の専用窓口を各道府県に設置

■障害者等が働きやすい環境整備への支援

生産・加工施設、休憩所、トイレ等の整備への支援
【上限1000万円×1年間、1/2補助】

生産・加工技術の研修等への支援
【上限150万円×2年間、定額補助】

■専門人材の育成

障害特性に応じた農福連携の実践手法等に関する「農福連携技術支援者研修」の実施

■ノウフクJASの認証

障害者が生産行程に携わった食品等を第三者機関が認証

■企業版・地域協議会・ユニバーサル農園

取組事例やポイントを紹介



企業版 農福連携
取組事例集



地域協議会の
立ち上げに向けて



ユニバーサル農園
事例集

広げたい

■農福連携等応援コンソーシアム

国、地方公共団体、関係団体、経済団体等の614の団体・企業が参画(令和7年8月末時点)
★会員募集中！

■消費者・企業等への普及・啓発



- ・ノウフクの日、ノウフクウィークにおける全国でのイベントの実施
- ・都道府県と連携した農福連携マルシェの実施
- ・農福連携の商品の商談会の開催

■地域協議会の設立等への支援

地域における農福連携の推進に向けた活動を支援
【上限300万円×2年間】
【定額補助】

農林水産省HP

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/index.html>

農福連携に関する
施策や情報を掲載



ノウフク・アワードについて

- 全国で農福連携に取り組む団体等を募集し、農福連携の優れた取組をノウフク・アワードとして表彰。農福連携の国民運動としての機運を高め、**全国的な展開につなげる**ことを目的として開催。
- 令和2年度に初開催し、「みんなで耕そう！」をスローガンに、「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」の観点から優れた取組を表彰。これまでの5年間で、のべ110件(44都道府県)が受賞。
- ノウフク・アワード2024では、障害者の農業生産・加工・販売での活躍、観光や輸出等との連携による工賃向上、地域の高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者、犯罪をした者等の農業を通じた社会参画、林福連携、水福連携等の、**農福連携等を通じた地域共生社会の実現に資する多様な事例が受賞**。

取組概要

応募対象

全国で農福連携に取り組んでいる団体等

選定方法

「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」

との観点から、優れた取組に対して

以下の賞を授与

「グランプリ」、「準グランプリ」、「優秀賞」

「フレッシュ賞」(取組開始5年以内の優れた取組)

「チャレンジ賞」(「農」や「福」の広がりに向けた取組)

審査委員

中嶋 康博* (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

濱田 健司 (東海大学文理総合学部 教授)

松森 果林 (ユニバーサルデザインアドバイザー)

村木 厚子 (全国社会福祉協議会 会長)

米田 雅子 (東京科学大学環境・社会理工学院特任教授)

*審査委員長

2024表彰式の開催

官房長官・4大臣による祝辞



ノウフクアンバサダー
城島 茂 さん

農福連携は人の心を耕す取組。
頑張っている汗を伝えていきたい。



「ノウフク・アワード2024」表彰22団体

グランプリ

- ①株式会社菜々屋(徳島県徳島市)
・農業法人4社が共同して障害者就労施設を立ち上げ、県内の各農協と連携して、県内全域の農家で施設外就労を行い、農業経営の効率化や規模拡大に貢献。
- ②一般社団法人STEP UP(宮崎県宮崎市)
・障害者就労施設が農業生産法人を立ち上げ、障害者・刑務所出所者の就労や生活の安定に向けた支援を行うとともに、認定農業者として地域の農業に貢献。

準グランプリ(人を耕す)

- ③NPO法人熊本福祉会(熊本県熊本市)
・荒廃農地の活用、6次産業化の取組、障害者・刑務所出所者の職員としての雇用を行うとともに、農福連携の地域協議会を設立し、農業法人・JAや企業と連携して、地域ぐるみの取組を実施。

準グランプリ(地域を耕す)

- ④株式会社ココトモファーム(愛知県犬山市)
・米の生産・加工・販売を一貫して行うとともに、地域内外の企業や障害者就労施設等と連携したバウムクーヘンの開発・販売等を通じて、誰ひとり取り残さない居場所を創出。

準グランプリ(未来を耕す)

- ⑤株式会社八天堂ファーム(広島県三原市)
・障害者を含む生活困窮者の自立支援に向けて、果樹栽培、他の事業者の農福連携産品も含めた商品開発、加工・販売など、「商工農福連携」をめざした取組を実施。

優秀賞

- ⑥青森県 弘前市
・農業者と障害者等のマッチングに取り組み、独自のマニュアルや支援制度等を整備。不登校傾向等のある児童や特別支援学校の生徒向けの農業体験も実施。
- ⑦株式会社バラの学校<ナカイローズファーム>(山形県村山市)
・除草剤を使用せず無化学肥料で食用バラを栽培し、施設外就労を活用して生産規模を拡大し、花きで初となるノウフクJASを取得。農福連携に取り組む食用バラ農家の育成を実施。
- ⑧埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園(埼玉県羽生市)
・農業コースの生徒が農業者の指導による農産物の生産、企業等との連携による新商品の開発・販売を通じて、農業への知識・技能を深め、社会に貢献できる人材育成をめざす取組を実施。
- ⑨株式会社JAぎふはっぴいまるけ(岐阜県岐阜市)
・JAぎふの特例子会社として、荒廃農地での農業再生に向けた取組、ユニバーサル体験農園の実施、地元企業と連携した特産品の開発などで地域に貢献。

優秀賞

- ⑩社会福祉法人 ステップ・ワン(静岡県御殿場市)
・障害者就労施設が、水耕栽培に取り組み、毎日安定出荷することで高工賃を実現。地域のスーパーとの取引拡大により、第2農場を建設するなど規模拡大を実現。
- ⑪社会福祉法人小国町社会福祉協議会(熊本県小国町)
・荒廃農地を活用した大豆栽培、豆腐製造、おからを餌にした養鶏事業、食肉加工、直売所やレストランの運営等の多角化により、障害特性に応じて働ける場を創出。
- ⑫竹福商連携による竹の資源化モデルの構築と実践(鹿児島県大崎町)
・障害者就労施設、加工業者等が連携し、地域の高齢者や障害者が放置竹林の整備や竹炭の製造を行うモデルを創出。竹炭を土壌改良材として活用したサツマイモの加工により収益化を実現。

フレッシュ賞

- ⑬ちば東葛農業協同組合(千葉県柏市)
・組合員と障害者就労施設とのマッチングにおいて、作業内容と対価をJAが調整することで年間80件のマッチングに拡大。JAの部会で初となるノウフクJASを取得。
- ⑭岐阜県立岐阜本巣特別支援学校(岐阜県岐阜市)
・農業地域にある特別支援学校として、農福連携の取組を開始。生徒が主体となり、遊休農地等を活用し、生徒が栽培しやすい特色のある『ルビー色の蕎麦』や『イタリア野菜』を生産。

優秀賞

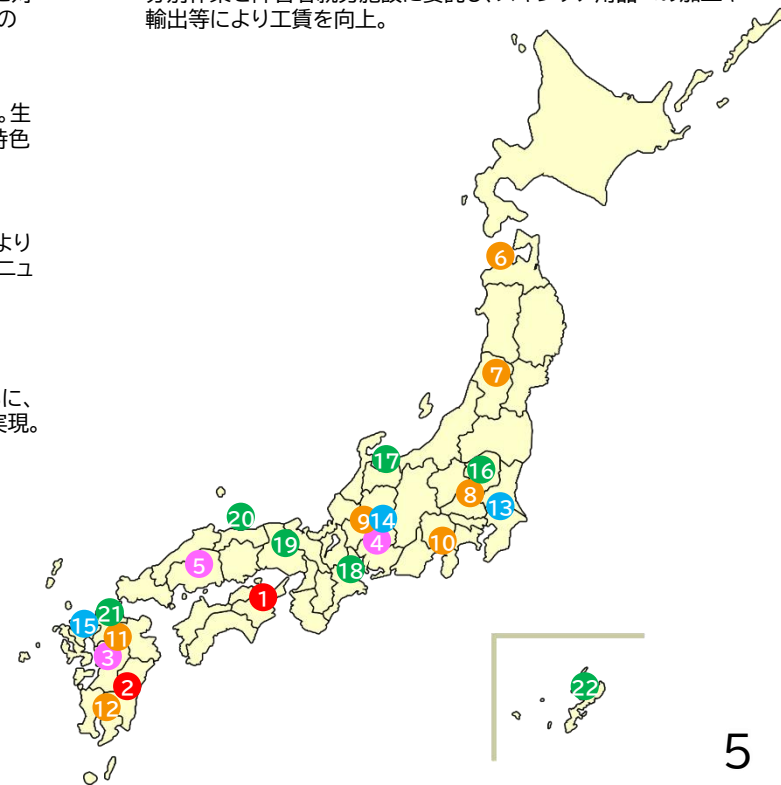
- ⑮佐賀県
・農業者と障害者就労施設のマッチングやその後のフォローにより農福連携が県全域に拡大。農業者の理解促進やマッチングマニュアルの作成により中間支援の質を向上。

チャレンジ賞

- ⑯社会福祉法人めぶき会(栃木県小山市)
・観光農園を営むグループ企業のいちご栽培を請け負うとともに、自社のキッチンカーやクレープ店での活用により、高収益を実現。
- ⑰社会福祉法人 フォーレスト八尾会 おわらの里(富山県富山市)
・地域に伝わる桑栽培のリブランディングとして、伝統工芸である和紙のパッケージによる商品開発、剪定枝のバイオマスプラスチック化等により工賃を向上。
- ⑱株式会社ケアプロフェッショナル(三重県伊勢市)
・放課後等デイサービスを運営する中で、障害者が社会参画できる場として農業参入。ワイン専用欧州ぶどうの栽培からワイン製造まで全て自社で実施し、国際交流にも発展。

チャレンジ賞

- ⑲社会福祉法人上野丘さつき会(兵庫県神戸市)
・1981年から農福連携を開始。地域の農業者の高齢化により作業受託面積を拡大し、草刈り機の操縦等にも障害者が従事。竹林の伐採・竹出し等も実施。
- ⑳NPO法人ライヴ(鳥取県米子市)
・地元漁師と連携し日本海産の海藻・魚介類を乾燥加工して販売。作業請負からの転換で工賃向上を実現。製品化までの全工程に障害者が携わることで自身の充実感・達成感も向上。
- ㉑社会福祉法人ハイジ福祉会 フラワーパッケージセンター(福岡県八女市)
・JAの部会との委託契約により花きのパッケージセンターを運営し、地域農業の維持・発展に貢献。認定農業者となり自社生産も実施。
- ㉒株式会社沖縄UKAMI養蚕(沖縄県今帰仁村)
・荒廃農地や廃校を活用し、沖縄ワリ蚕の大規模養蚕を実施。繭の分別作業を障害者就労施設に委託し、スキンケア用品への加工や輸出等により工賃を向上。



ノウフクJAS(障害者が生産行程に携わった食品及び観賞用の植物の日本農林規格)

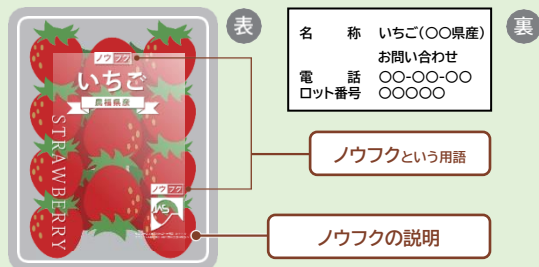
- ノウフクJASは、**障害者が生産行程に携わった生鮮食品、これを原材料とした加工食品、障害者が生産行程に携わった観賞用の植物を規格化したもの。**
- ノウフクJASの商品は、エシカル消費(地域の活性化や雇用などを含む、人・社会、地域、環境に配慮した消費行動)に関心のある消費者への訴求が期待される。



ノウフクJASの規格等の内容

ノウフク生鮮食品、観賞用の植物

- 農林水産物の**主要な生産行程**に障害者が携わっていること
- 障害者が携わった生産行程を記録し、回答できること 等



ノウフク加工食品

- ノウフク生鮮食品を**少なくとも1種類以上**使用すること 等

ノウフクという用語とその説明

+

ノウフク生鮮食品を原料に使用している旨 等



ノウフクJAS取得事例

株式会社ウィズファーム(長野県松川町) 2019年11月1日認証(第1号)

- 農業を通じた障がい者の工賃向上をめざして、りんごやぶどう等を生産。
- 個々の特性に応じた作業分解を通じて、生産行程のほとんどに障がい者が従事。
- ノウフクJASを取得したりんごジュースが大手リゾートホテル等で取り扱われ、品質の高さとともに、生産されている背景を含めて高い評価。



エシカル消費との関係

エシカル消費の要素※

人・社会

地域

環境

農福連携の商品の特徴

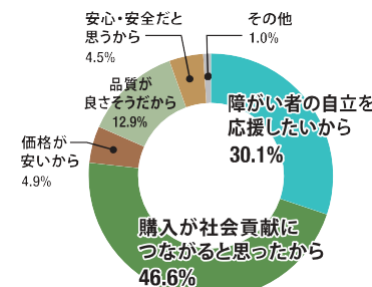
障害者の自信や生きがいの創出

地産地消への貢献

環境等に配慮した持続可能な農業の推進

※消費者庁「エシカル消費特設サイト」を参考に作成

消費者が農福連携の商品を買いたいと考える理由



出典: 株式会社インサイト「農福連携に関する消費者アンケート調査結果」(令和4年度)

株式会社 菜々屋

(徳島県徳島市)



農業法人4社が共同して障害者就労施設を立ち上げ、
県内の各JAと連携して、県内全域の農家で施設外就労を行い、
農業経営の効率化や規模拡大に貢献。

概要

人を耕す

- 様々な農業現場での作業を通じて障害者が社会性を育み、一般就労を目指せるよう支援し、これまで41名が農業法人、JA等に一般就労。
- 農場長として働いていた障害者が露地野菜の農家として独立し、その後のサポートも実施。
- 障害者就労施設の利用者に対して、体力や特性に合わせて農作業を細分化するとともに、評価書(アセスメントシート)による評価を実施。利用者が安全に作業できるよう体調管理にも配慮。

地域を耕す

- 新規就農者や規模拡大を目指す農業法人から作業を受託して、障害者が収穫、徳島県のブランドさつまいも「なると金時」のバック詰め等を行い、農業経営の効率化や規模拡大に貢献。
- 中山間地での「すだち」の収穫支援により、人手不足の解消に貢献。

未来を耕す

- 農業経営者ならではの知見を活かして、地域の様々な作物に関する作業委託に対して、作業の細分化と年間スケジュールの作成により、農福連携が円滑に実施できる仕組みづくりを実施。
- 障害者がコンバインによる収穫作業を行うなど、新たな技術習得にもチャレンジ。
- 特別支援学校での農業体験授業や地域貢献活動としてボランティアや農産物の販売を実施。

成果

- 就労継続支援B型事業所の平均工賃月額は、取組開始当初の4,838円/人(H27:31名)から81,098円/人(R5:91名)へ増加。
- 農産物の売上高は取組開始当初の3,000万円(H27)から15,782万円(R5)へ増加。
- 「なると金時」を栽培している農業法人で障害者が施設外就労し、年間40tの芋の皮むきを実施することで、生産量が13%増加。
- 徳島県からの出荷量が減っている「すだち」の植樹事業を開始し、荒廃農地の解消に貢献。
- 障害者が生産に挑んだ白なすをマレーシアに輸出。
- 障害者が生産に挑んだ野菜を加工し、祭りの屋台で販売する他、弁当にして単身高齢者世帯への配達等も実施。

基本情報

設立:H24年
農福連携取組開始:H27年
取得認証等:JGAP
主力商品:(農作物)こまつな、ちんげんさい、なす、レタス 等
特徴的な取組:スマート農業

株式会社 八天堂ファーム

(広島県三原市)



障害者を含む生活困窮者の自立支援に向けて、
果樹栽培、他の事業者の農福連携産品も含めた商品開発、加工・販売など、
「商工農福連携」を目指した取組を実施。

概要

人を耕す

- 生活困窮者には県の最低賃金以上の給与を支払い、自立支援を図るほか、特性に応じた働き方を提供し、多様な支援環境を整備。
- 宗越福祉会、広島県立黒瀬高校、八天堂ファームで協定を締結。生活困窮者の予備軍である若者には教育の場を提供し、農福連携の人材創出を目指す活動をR5年から開始。

地域を耕す

- R4年から地域のスーパーでぶどう販売を開始。収穫量は4,000房(R3)から14,000房(R6)に増加し、R6年は4つのスーパーで販売。
- 地域の高齢者の雇用、障害者による選果や包装のほか、県立三原特別支援学校との商品開発や、高校生のボランティアの受入れも実施。

未来を耕す

- 「ノウフクの理念の啓蒙・共生社会の実現」を目指し、岡山県や岐阜県の事業者の農福連携産品を活用してジャムや「くりむパン」を開発し、商品開発や販路拡大に取り組む。ノウフクJASを取得。
- R6年に広島県と3市(三原市、竹原市、東広島市)と連携して、「農福コンソーシアムひろしま」を立上げ。

成果

- 年間を通じて安定して仕事できる体制を構築しており、障害者等の賃金は時給900円(R3)から時給1,020円(R6)に増加。
- 「農福コンソーシアムひろしま」には7事業者が加盟。
- 耕作放棄された81.29a(R5)のぶどう園を受け継ぎ、農地の維持に貢献。
- 農作業には4人(R6)の障害者が従事。
- ひきこもりの状態にある者がほ場での勤務をきっかけに運転免許を取得するなど、行動が変化。
- 農福連携産品を活用した「バターサンドウィッチ」を開発し、「ナチュラルローソン」で販売されるなど、積極的に販路を開拓。

基本情報

設立: R4年

農福連携取組開始: R3年

取得認証等: ノウフクJAS

主力商品: (農作物) ぶどう、いちじく

(加工品) くりむパン、バターサンドウィッチ

特徴的な取組: 環境保全型農業

NPO法人 ライヴ

(鳥取県米子市)



地域の漁師と連携し日本海産の海藻・魚介類を乾燥加工して販売。

作業請負から水産加工品製造・販売への転換で工賃向上を実現。

製品化までの全工程に障害者が携わることで自身の充実感・達成感も向上。

概要

人を耕す

- 開始当初はわかめ干し作業の請負作業が売上の中心だったものを、自分たちで行う水産加工品の製造・販売にシフトすることで売上高が100倍以上に増加。
- 様々な決め事に際して職員が利用者に伝えるだけでなく、随時ミーティングをしてもらい、今している作業は何のための作業なのかを説明することで自主性を育成。

地域を耕す

- 主力商品の「板わかめ」は山陰地方の名産であるが、製造所が減少しており、地域の漁業者から製造方法を教えてもらうことで、地域の食文化の継承に寄与。
- 地域の漁協からの提案をきっかけに、地域で初めて採れるようになったひじきを原料にした新商品「乾燥ひじき」を開発し、販売を開始するなど地域水産業の維持に貢献。

未来を耕す

- 添加物を一切使用せず、素材の風味を大切に商品づくりを実施。
- 新設した水産加工施設では、他の福祉事業所の利用者に、水産加工作業の一部を委託することで、連携する事業所数を増やし、水福連携の輪を拡大。

成果

- 売上増加に伴い、取組当初の平均工賃月額15,700円/人(H23)から約2倍の29,054円/人(R5)に増加。
- 水産加工に関わる障害者数は取組当初の6人(H23)から23人(R5)に増加。
- 水産物製造による売上高が取組当初の8万円(H23)から851万円(R5)に増加。
- 職員のサポートなしで完全に製造を任せることのできる利用者もあり、県平均を大きく上回る月5万円以上の工賃を実現。
- 地域の奉仕作業への参加や、特別支援学校や中学校等の職業体験の受け入れ等により、地域との交流や活性化に寄与。
- 水福連携の取組が地域の新聞やニュースで掲載。

基本情報

設立: H23年

農福連携取組開始: H23年

主力商品: (水産加工品) 板わかめ、乾燥ひじき、乾燥ホタルイカ

特徴的な取組: 水福連携



のうふくれんけい 農福連携



農業を通じて、誰もが活躍できる社会へ

農福連携とは、農業と福祉が連携し、障害を持った人をはじめとする多様な人たちが、農業などで活躍することを通じて、自信や生きがいを持って社会参画することを実現する取組です。

農業の課題



- 農業を支える働き手の確保
※基幹的農業従事者は約20年間で半減
- 荒廃農地の解消
※再生利用可能な荒廃農地は全国で約9万ha

京丸園(株) 静岡県浜松市

- 13代続く野菜農家
- 平成8年から毎年1名以上の障害者を新規雇用
従業員106名中、障害者は25名
- 障害者雇用数に比例し売上増加
(28年間で9倍に)
- 障害者の視点で農作業の体制を
整備することで作業が効率化



福祉(障害)の課題



- 障害者の働く場の確保
※障害者約1160万人のうち
雇用(就労)しているのは約114万人
- 賃金(工賃)の引き上げ
※就労継続支援B型事業所の利用者の
平均工賃月額17,031円(令和4年度)

(社福)ゆずりは会 菜の花 群馬県前橋市

- 知的障害のある人たちに就労の訓練等を行う事業所
- 施設を利用する障害者約20名以上が全員、年間
を通じて農作業に従事
- 1人1人の障害の特性に応じた
農作業の分担により全員が活躍
- 月の平均工賃は
県平均の約4倍を実現



林業 水産業 への広がり

高齢者 生活困窮者
ひきこもりの状態にある者
犯罪をした者 等への広がり

多様な人たちが、生きる力や可能性を最大限発揮できる
地域共生社会の実現に貢献します

11月29日は「ノウフクの日」として農福連携を盛り上げよう！